

現代短歌分類辭典

別名現代短歌總索引

第十七卷

津端 修 編纂

津 端 修 編 纂

現代短歌分類辭典

第 十 七 卷

自費出版 限定版1,000部

現代短歌分類辞典

17

昭和四十三年三月五日発行 定価四五〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 修

東京都中野区上高田二丁目九の一六

発行所

津 端 修

振替 東京 六七三四一番
電話 三八七局八四二九番

目

次

あした②	八九	歌数	一	あしたか虫	一	歌数	六	頁数
あした(明日)	三六		八	愛鷹山	八		〃	
芦田	一		二	足高与平治	二		〃	
芦田(芦田川の略)	一		〃	足だこ	〃		〃	
足駄	二三		三	あした白雲	三		〃	
あしたあした	一一		四	あした空	四		〃	
足台	一		五	葦立ち	五		〃	
足太鼓	二		〃	芦鶴(あしたづ)	〃	七五	〃	
愛鷹	二〇		〃	脚立	〃	一	六	
脚高蜘蛛	一		七	あしたゆふべ	七	五八	七	
足高机	一		〃	あした水霜	〃	一	三	
愛鷹の峯	四		〃	あした昼夕べ	〃	一	〃	
愛鷹の山	二		〃	足力	〃	一	〃	
芦田川	四		六	葦づか	六	三	〃	
脚高舟橋	一		〃	足つき	〃	二	三	

足つぎ	一	歌数	三	頁数	あしなが（足長蜂の略）	三	歌数	四	頁数
足附の湯	一		〃		足長蟹	一		〃	
芦角	一		〃		足長蜘蛛	二		四	
足爪	一		〃		足長蜂	二		〃	
芦手	一		〃		足長山	一		四	
足手まとひ	二		言		あしなへ	四	七	〃	
あしと（足跡）	四		〃		あしなへーし	一		〃	
足処	一		言		足なへ殿	一		〃	
あしどなり（足疾なり）	一		〃		足なへ人	一		〃	
あしどに（足疾に）	五		〃		足なへをとこ	一		〃	
足どめ	一		言		足並	二	五	〃	
足どり	二		〃		あしなら	一		〃	
足萎え	一	三	言		足ならし	一		〃	
あしなえびと	一		言		芦沼	一		〃	
葦なか	一		〃		葦野	一		五	
足なか	一		〃		芦の湖（あしのうみ）	六		〃	
脚長	五		〃		芦の湖べ（あしのうみべ）	一		〃	

あしのうら(蹠)	一	歌数	五	頁数	足早	三	歌数	六	頁数
芦の湖(あしのこ)	一八		五		足ばやなりーし	一		六	
芦の湖うへ	一		五		足速に	二五		六	
芦の湖水	二		〃		足速をのこ	一		六	
葦野地	一		五		芦原	一八二		〃	
足のひら	一		〃		芦原(人名)	一		九	
芦の間がくり	一		〃		芦原金次郎	三		〃	
あしのみ(芦の湖)	一		〃		芦原將軍	二		〃	
あしのみづうみ	一三		〃		葦原なか	三		〃	
芦の芽ごし	一		五		葦原の国	九		〃	
芦の屋	四		五		あしはらの国つ宝	一		六	
芦の湯	三		〃		葦原野べ	一		〃	
あしのゆのさと	一		五		葦原のみづほの国	四		〃	
芦葉	二		〃		芦原道	一		六	
足場	二七		〃		芦火	二		〃	
足場しーて	一		五		馬酔木(雑誌名)	一〇		〃	
足肌	一		六		馬酔木	二七		三	

馬酔木―の―かげ	歌数 三	頁数 九	馬酔木房花	歌数 二	頁数 一三
―つぼみ	六	〃	足拍子	三	一三
―はな	六〇	六	馬酔木若葉	二	〃
―はやし	三	九	芦生	三一	〃
馬酔木歌書	一	一〇	芦笛	二	一五
馬酔木が原	三	〃	芦ぶき	三	〃
足びきの	三五	〃	芦生ごもり	一	一〇
あしびく	一	一三	葦生隠り沼	一	〃
あしび子	一	〃	葦生つづき	一	〃
馬酔木白花	三	〃	足踏	九	〃
馬酔木樹の間	一	〃	足踏み白	一	一六
あしび垂り花	二	一三	足踏し―つつ	三	〃
馬酔木の木	五	〃	足ぶみする	一	一五
あしび花	三	〃	足辺	三	〃
あしび花（雑誌名）	一	一三	芦辺	一八	〃
あしび花園	一	〃	あしべ（沙渚べ）	一	一四
馬酔木林	一	〃	葦平（火野葦平）	一	〃

葦べ風	一	歌数	二四	頁数	芦屋(地名)	二	歌数	二九	頁数
芦辺潟	二		〃		芦屋	四		一〇	
芦べ小夜風	一		一四		あじや	五		〃	
芦別	一		〃		阿城駅	一		一八	
芦穂	一		〃		あしやかた	一		〃	
芦矛	一		〃		芦安	一		〃	
足ほてりする	一		〃		芦屋婦	一		〃	
足ほてりせーり	一		一四		芦屋殿	一		〃	
芦間	四五		〃		芦屋橋	一		一三	
あじまさ(檳榔)	一		一四		あじやびと(兄者人)	二		〃	
あしまめ	一		〃		芦屋古釜	一		〃	
芦群	八二		〃		足疾み	三		〃	
葦群がくり	一		一五		阿闍梨	二		一三	
葦群かげ	二		〃		阿闍梨顔	一		〃	
足もと	二九		〃		あしゆく(阿閼)	一		〃	
足守川	一		〃		あしゆくびく(阿閼比丘)	一		〃	
あしや(芦谷)	一		〃		足湯しーて	一		〃	

足指	一	一二	歌数
阿修羅	一三	一八三	頁数
阿修羅像	一	一八四	
アシュール(線影)	一	一八六	
足弱	六	〃	
足よわ杖	一	〃	
脚廊	一	一八七	
あしらひーがてーに	一	〃	
あしらひ添へ	一	〃	
あしらひーて	一	〃	
あしらふ(終止形)	三	一八八	
あしらふ(連体形)	五	〃	
網代(地名)	一〇	一九〇	
網代(網代木の略)	一	一九〇	
網代(網代網の略)	四	〃	
網代あたり	一	〃	
網代笠	四	一九二	
		足尾	
		芦分小船	
		葦分舟	
		葦分	
		網代山	
		網代村	
		網代港	
		網代岬	
		網代町	
		網代の山	
		網代の村	
		網代の港	
		網代の町	
		網代の車	
		網代台	
		網代車	
		網代木	

三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	歌数
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九二	頁数
															一九三	
															一九四	

足尾路	一	歌数	一五	頁数	飛鳥川	一七	歌数	二六	頁数
あしをとほやま	一		〃		飛鳥川ぞひ	二		二四	
足尾の山	一		〃		飛鳥川原	一		二五	
足尾山	一		〃		飛鳥神南備	一		〃	
明日	七三六		〃		飛鳥浄御原	一		〃	
安須	一		二五		飛鳥路	一〇		〃	
褪す	二		〃		飛鳥寺	一		二六	
あず(崩岸)	六		二五		アスカナシイ	一		〃	
明日あたり	二		〃		飛鳥野	三		〃	
明日香(雑誌名)	一		二五		明日香の川	五		二七	
飛鳥(地名)	二		〃		飛鳥の神	一		〃	
明日香(地名)	二四		〃		飛鳥の里	六		二六	
飛鳥あたり	一		二三		飛鳥の宮	一		〃	
飛鳥以前	一		〃		飛鳥の村	一		〃	
飛鳥板葺の宮	一		〃		飛鳥の山(東京)	四		二六	
飛鳥以往	一		〃		飛鳥の山(奈良)	一		〃	
明日香風	二		〃		明日が日	一		〃	

飛鳥人
飛鳥人ら
飛鳥藤原
飛鳥ぶつ
飛鳥仏薬師如来
飛鳥ぼとけ
飛鳥山
飛鳥井
足助重範
足助の次郎
あすこ
あすならう
あすなろ
明日の日
足羽県（あすはあがた）
あすはがは
阿諏訪長次

	歌数	頁数		歌数	頁数
飛鳥人	三	二九	足羽の山	一	二六
飛鳥人ら	一	二七	アスパラ	一	二七
飛鳥藤原	一	〃	アスパラガス	一四	〃
飛鳥ぶつ	一	〃	アスパラガス畑	一	二六
飛鳥仏薬師如来	一	二〇	アスハルト道	四	〃
飛鳥ぼとけ	四	〃	あすひ（あすなろ異名）	一	二九
飛鳥山	五	二七	アスファルト	三二	〃
飛鳥井	一	〃	アスファルト道路	二	二八
足助重範	一	二七	アスファルト通り	一	〃
足助の次郎	一	〃	アスファルト道	一〇	〃
あすこ	六	〃	アスファルト路上	一	二八
あすならう	二	二七	明日未明	一	〃
あすなろ	七	〃	あずり（足擦り）	一	〃
明日の日	二七	〃	褪する	五	二八
足羽県（あすはあがた）	一	二六	汗①	三三七	〃
あすはがは	一	〃			
阿諏訪長次	二	〃	合計	三、三七〇	

あした ②【名詞】

よき雨と朝降り来し眼に追へば風蘭は揺るる梅の古木に

泉 甲二

よく眠れただよく眠れあしたより飽かずものをばうつしし瞳⑤

尾上 柴舟

夜すがらに降りにし雪か磐梯の裾原こめてかがやく朝②

藤森 朋夫

世にありし妹どちの夢をみて朝の床に眼をさましけり①

高田 浪吉

夜におきてあしたは消ぬる露霜のきえがてにする山のむら笹⑤

尾山 篤二郎

よのなかに求むるものありやなしや夏のあしたの白はちす花②

和田 山蘭

世の中のことまだ聞かぬあしたこそ人のころはしづけかりけれ②

明治 天皇

夜のまよりいでてゆく君小金井のあしたの花は君ひとり見む

金子 薫園

夜半降りてあした霽れゆく雨癖の三日四日続き冬づきにけり⑧

三 苫 守西

宵にききし時雨はけだし止みたらしあした静かに鴉啼く聞ゆ①

花田 比露思

よひにきてあしたながむるむかつをのこぬれしづかにしぐれふるなり①

会 津 八一

あした

あした

宵に咲きあしたにしほむ北うみの砂山かげの月見草の花③

よひに掃きてあしたさやけき庭の面にこぼれてしるき錦木の花①

夜に降りてあしたは霽るるこのごろの日和を愛しむ慣れし家居に③

宵に見て朝忘るるかりそめの夢にも似ばと君にかこちつ

宵のうたあした芙蓉にねたみもつよ黒髪ながき秋おごり妻②

よひの雪あした晴るればあまりにも異なる事のなき心かな⑤

よべおそく雨降りいでつこのあした大津におりて子は寒からむ①

よべ父のいつ帰りしとこのあした起きいでし子のあやしみて問ふ

よべの雨晴れしあしたの美園うまぞのの岡をしづけみ花も散りこず

夜べの雨霽れしあしたの湿りよみ庭すみにして鶏番つがひたり

昨夜の風に庭松青葉散りしきて朝すがしき匂ひを放つ⑧

昨夜の花をととひの花露に濡れあしたに靡く月見草かな⑩

相馬御風

長塚節

長谷川銀作

窪田空穂

与謝野晶子

尾上柴舟

鵜木保

塚田菁紀

蔵真

高木一夫

山田政郎

与謝野晶子

よべ一夜暴風雨たけりてこのねぬる朝さやけし滝川の音⑤

岡野直七郎

昨夜ひと夜苦しみ通しこのあした安らぐ友の死顔を見つ③

関 昌 寿

よべ一夜井水につけておきしかばあしたはすがしあぢさいの花⑥

大西伊三郎

よべ降りし雨をたたへて此朝牡丹の花は傾き散りぬ

平福百穂

夜店にて買ひし雛芥子旦には花びらかさね散り落ちにけり

宮坂 滯

夜著きて朝明くれば小涌谷紅葉あかるく寒き雨ふる①

川浪磐根

よるに降りあしたにきゆるものにあれどこれの白雪うれしきろかも②

和田山蘭

夜の雨あした氷りてこの岡に立てる冬木をしろがねとしぬ

窪田空穂

夜降りし雨にうるほふ郊外の土を踏みつつ朝帰りぬ

高田浪吉

喜びは春のあしたの日ざしよりいとおほらかにながれ来にけり②

河杉初子

よろこびを言にはいはいでこの朝瓶の白菊水替へにけり⑤

高橋英子

夜をひと夜雪をふらせし大空のあした光るを見れば厳しき②

岡崎義恵

あした

あした

労働者二十人余りトラックにてゆられ過ぎたり朝あしたふる霧の中②

流材は大川岸に凍てつきて朝つめたき冬となりたり⑤

留置場のかびくさき蒲団をもろもろの罪せ人と朝たたむも

遼陽の朝のめざめ鵲がすぐ眼のまへの土にも下りたつ⑧

わが家の門の小みちにこのあした遊べる友をわれは見て居り

わが歌を悪しと云ふ人世にあるにあしたうれしき夕さびしき⑤

吾夢あしたの露とけたまくと君とほとけを語るを願ふ

わが面に霧ふりかかるころよさあしたの畑にひとり来にけり

わが思ふこと おほかたは正しかり ふるさとのたより着ける朝は①

わが甲斐の都留の群嶺にこのあした秋風立つと雲騒ぐ見ゆ⑧

若かへであしたの雨の静けさに身を夏安居けあんごの仏子になずらふ

わが体いたはりであるこの朝ラジオは山鳥の声を聴かしむ②

鹿児島寿蔵

田辺利徳

山本幸武

斎藤茂吉

古泉千樫

与謝野寛

三井甲之

中島泉二

石川啄木

山口不二花

津軽照子

藤森朋夫

吾が心冷たしといひて去りゆきぬめとりて七日経たる朝は

三枝凡平

わが心張りみなぎれかおのづからあしたは早く眼のさめにけり⑤

吉植庄亮

わが死なんそのあしたには太陽よことに明るくわが部屋照せ⑥

原剛

わがためにみてうちならしわたつみのあしたのみやにはふりはうたふ

会津八一

わが友と朝の床に目ざめゐて物を言ふこそ親しかりけれ④

島木赤彦

我が庭に馴れて来鳴きし鶯のこゑせぬあした春の雨降る

村上成之

若葉せる庭におり立ちこの朝くまぐまあかるく掃きよせにけり

平福百穂

わが二十秋の朝に紅なしの友染著るはさびしきものを⑨

与謝野晶子

わが畑の夏のあしたのしづもりにかんぼちやの花大きく咲けり①

岡野直七郎

わがはだへ見えすくばかり澄みかへるあしたの海の泳ぎごちよ

武島羽衣

わが一生に呑みこみし酒を思ひみつあした人なきプール見おろす①

加納小郭家

わが身すらそむくがごとく悲しけれあしたとなるも寝つかれずして

石川まき子

あした

あした

わがめづる庭の小松にこのあした初雪ふれり芝の小松に
わが屋根にゐる雀子がなきやめず返り霜きし春の朝に②
わが丘に常見る山よこのあした裾廻ゆたかに靄流れたる

吾妹子と春の朝に立ちわかれ空の真昼の十二時に死ぬ⑭

わけもなく春のあしたの砂はまにかけずりまはる子等はわが子等③

渡津海の朝のいそに立つ波のすがすがしくも年立にけり

海津日のみなぎるみればあらわしのつぎてわたりしあしたおもほゆ⑩

わづらはし朝の人はあざみゆきぬ夕べの人はたたへてすぎぬ①

草鞋穿きて旅立つあした足かろし宿場をすぎて橋わたりたり

童等が羽根つきさやぐ元日の朝の街風ちまたの清しき②

割当の供出まぐさ慣れぬ手に苅らむと妻も苅らむと朝鎌研ぐ①

割木積みて匂ふ車のうしろよりあした跟つけ行く楽しむ如く①

伊藤左千夫

平野宣紀

原阿佐緒

与謝野晶子

相馬御風

蕨樞堂

安江不空

九条武子

平福百穂

都筑省吾

川浪磐根

加納小郭家